

宇部市立図書館リニューアル基本構想

【概要版】

構想策定の背景と目的

「自らの地域は自らの手でつくる」「共存同栄・協同一致」の精神を継承する宇部市の図書館として、次世代のまちづくり・ひとづくりを実践します。まちとひとを育て、地域社会の可能性を広げ、まちなかの交流・賑わいを創造する宇部市立図書館の姿を構想します。

図書館の新しい役割

高度情報化社会 Society5.0等の社会背景や人口減少、少子高齢化等の社会課題に柔軟に対応できる図書館像を構想する必要があります。より多様な情報環境の創出と提供を目指します。

宇部市らしい読書のまちづくり

まちなかに交流とにぎわいを生み出し、ひとづくりとまちづくりを支える図書館として機能するため、これからの新しい読書のあり方を検討し宇部市らしい読書のまちづくりを目指します。

市民とのパートナーシップ

宇部共同義会、宇部方式の伝統を現代に受け継ぎ、図書館を通してまちを知り、考える場として機能させます。共存同栄・協同一致の精神のもと市民と図書館のパートナーシップ形成を目指します。

施設の老朽化

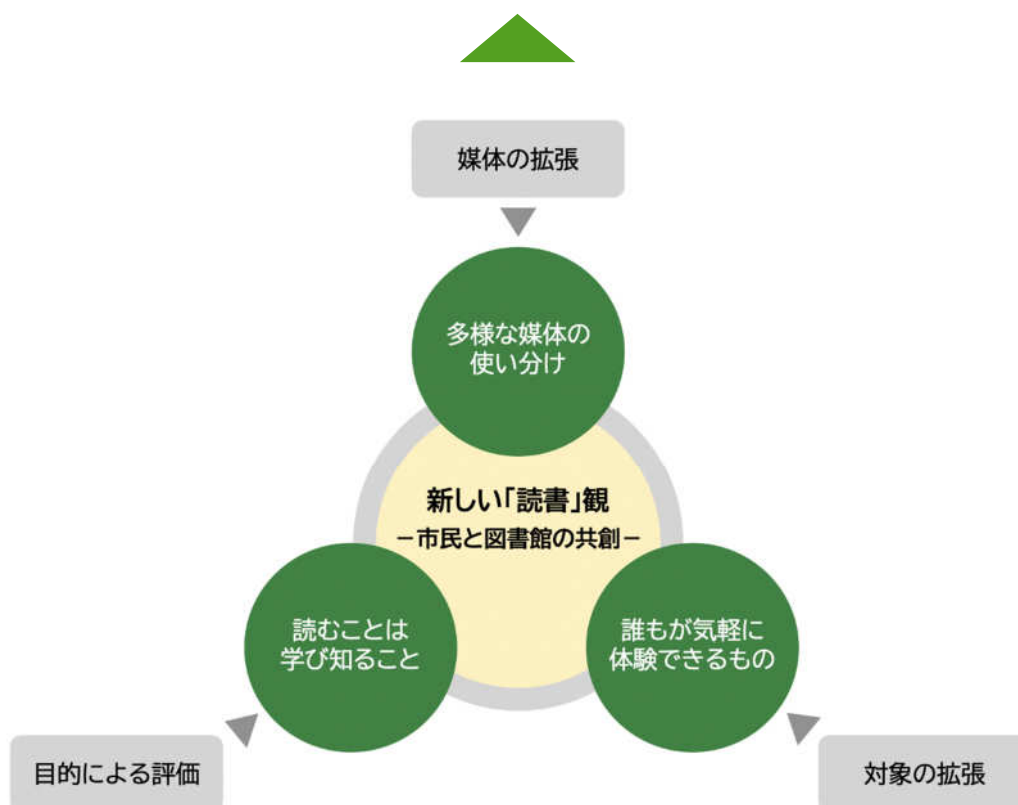
平成3年（1991年）開館以来、大規模改修等を行われておらず、耐用年数を超えた設備や機器の修繕・更新が求められます。より快適で質のよい図書館サービスの提供を目指します。

宇部市らしい「読書のまちづくり」

本市のまちづくりの方針と基本的施策の実践・実現に「読書」の観点から貢献するため、改めて「読書」という言葉が持つ意味を問い直します。現在の社会情勢とコロナ禍・ニューノーマル（新しい生活様式）のなかで、どのような「読書」が本市にとって必要なのか、継続的な市民との対話によって共創します。これまでの「読書」という言葉が持っていた「伝統的な読書観」から「新しい読書観」のあり方を検討していきます。

本市のまちづくりの方針と基本的施策

- みんなで築く活力と交流による元気都市
ー地域資源を共有し、みんなの元気を発信する協働のまちをめざしてー
（「第四次宇部市総合計画」）
- にぎわいと魅力あるまちづくりを目指す「読書のまちづくり拠点事業」
（「宇部市中心市街地活性化基本計画」）



宇部市立図書館の現状と課題整理

登録者数や貸出冊数は県内 13 の市立図書館の平均値より高い数値であり、市民による図書館の認知・利用状況は一定の評価を得ています。一方で、蔵書冊数と図書購入費、職員数については県内平均値より低い水準であることが課題です。

蔵書冊数と図書購入費の低さ

市民一人当たりの蔵書冊数は 2.6 冊（県内平均値 4.7 冊）市民一人当たりの図書購入費は 163.8 円（県内平均値 243.7 円）であり、いずれも低い水準です。

職員数の少なさ

正規・非常勤・臨時等をすべて含めた職員数は 35.4 人（県内平均値 38.9 人）です。人口一人当たりの職員数は 2.16 人（県内平均値 4.2 人）となっています。

参考：「日本の図書館：統計と名簿 2019」

1. 施設空間・環境と図書館サービスの連携の課題

開館以来のレイアウトが維持されたままであり、現在の利用者のニーズと図書館サービスが一致していない空間・環境です。利用者の図書館体験に基づいた図書館サービスの見直しと連携する施設空間・環境づくりが求められます。

2. まちづくりとつながる知識情報・交流拠点の課題

本市のまちづくりを支えるため、まちと市民をつなぐ情報収集・発信により能動的に取り組む必要があります。まちと人の情報を可視化することで、まちの魅力を再発見し、新しい活動や交流ができる知識情報・交流拠点としての機能が求められます。

3. 子どもたちの居場所・新しい学びの場づくりの課題

次世代を担う子どもたちの居場所であり、新しい学びの場となれるような環境づくり・資料収集が必要です。居心地よく過ごせる空間づくりと ICT を活用した最新技術にも自由に触れられまなべる環境・学習プログラムの実装が求められます。

リニューアルの基本方針

市民へのインタビューやフィールドワーク、宇部市立図書館リニューアル市民委員会等による市民との対話による検討過程を通して、リニューアルのビジョン（目標）・コンセプト（方向性）・アクションプラン（施策）を整理します。

ビジョン

知識や情報が循環する新しい読書環境の創造
ひととまちがつながり、自己成長・表現できる
まちなかの居場所

コンセプト

- ・ 「知りたい」「学びたい」を支える情報収集・発信拠点
- ・ 人やまちとの新たな交流と創造を生み出す場
- ・ 子どもから大人まで誰もが自分らしさを表現できる居場所
- ・ これからのまちづくりを共に考える「現代版・宇部方式」の実践

アクション

プラン

1. まちづくりに貢献できる図書館資料、サービスのあり方の検討
2. 市民に届く図書館情報の発信手法・広報手段の検討・実施
3. ときわ公園やUBE ビエンナーレ等、まちの重要な場所との連携手法の検討
4. 電子図書館等のデジタルでの図書館サービスの導入・活用方法の拡充
5. まちづくりと図書館のあり方を継続的に考える市民対話の組織・場の整備